

全国学校給食週間

（1月24日～30日）の取り組み！

明治22年、今から122年前、山形県鶴岡市でお弁当を持って来られない子どもたちに対して提供された昼食（右下の写真）が、「学校給食」の始まりだと言われています。

その後、戦争で中断していましたが、戦後の食糧不足の時代に、日本の子どもを助けようとアメリカから小麦粉やミルクなどの援助物資が送られ給食が再開されました。昭和29年には学校給食法が制定され、全国に学校給食が広まりました。

「全国学校給食週間」は、人々の温かい心によって、学校給食が再開されたことを記念する1週間です。町内の各小・中学校では、給食の歴史を振り返り、感謝の心を育てる取り組みが行われました。

その中で油木小学校では、明治22年のおにぎり給食にはじまり、昭和20年代、30年代、40年代を振り返る献立を実施し、「給食の歴史」について学習しました。



明治22年の給食
おにぎり、塩鮭、菜の漬物
（昭和40年代を再現した献立）
ごはん、牛乳、鯨の竜田揚げ、キャベツサラダ、すいとん

また、給食川柳を募集したところ、児童からは、給食を楽しみにしている様子の川柳、保護者からは、給食の思い出の川柳が数多く届けられました。

好きだった 鰹肉の ノルウエー煮
高石 尚子

いつまでも わずれないよ 油木の味
5年 萩原 麻琴

これからも地元食材を使った「地産地消」の給食をさらに進め、子どもたちの心に届く給食づくりについて学びます。



三和公民館まつり開催

1月30日、実行委員会による第7回三和公民館まつりが開催されました。

3B体操の元気なストレッチで幕が開け、こぼたけ保育所の鼓笛、三和小学校のよさこいソーラン、三和中学校の合唱、そして大正琴、男性・女性コーラス、舞踊など各サークルの日頃の練習の成果を発揮され、演目が終わるたび会場から大きな拍手が送られていました。

また、女性会によるコーヒー等の接待や三和公民館小学生茶道教室の子ども達によるお抹茶の接待もあり、来場者は喜ばれていました。

三和公民館子ども習字教室のプログラム作成の協力のもと、今年は32演目で、三和地区はもとより、町内一円に出場があり、公民館まつりが更に盛り上がりました。子どもから大人まで幅広く参加され、文化の発展と交流ができた1日となりました。



子どもの迫力ある舞に会場熱気

1月9日、くるみふれあいプラザで新春子供神楽共演会が開催されました。備後、備中の子供神楽団が集い、地元からは、神代子供神楽と油木八幡神社子供会神楽部が出演され、8演目を披露されました。今年で8回目となるこの共演会は、新春の恒例行事として町内外から大勢の観客で賑わい、子ども達の迫力ある舞に会場は熱気で包まれました。

町立病院からのお知らせ

「今日から禁煙始めませんか？」

健康づくり学習会「まめくらぶ」

1月26日（水）開催の健康づくり学習会「まめくらぶ」で「禁煙について」の話を聞かれたAさんがこんなことを言われていました。

『私は自慢じゃないが、バリバリのヘビースモーカーです。喫煙歴二十数年、1日に2箱吸い続け、風邪で寝込んでタバコを吸う意思の強い男です。目覚めやお酒を飲んでの一番のなんと美味しいこと。でも話を聞いてみて、タバコをやめられないのは、身体的依存（ニコチン依存）と心理的依存があって、ニコチン依存はニコチンパッチやガムによって無理なく禁煙できることが分かった。そしてタバコを吸う人よりも立ち上がる煙や吸った人が吐き出す煙の方が有害物質が多いと聞いて、今まで家族や職場で迷惑をかけていたと反省した。それから癌や脳卒中、心筋梗塞、肺気腫などに罹る確率が何倍も高いと知りました。煙草をやめれば1年で国内旅行、5年で海外旅行、10年でマイカーが持てるだけ節約になるらしい。家族にもサービスをしよう。私と同じような仲間禁煙宣言をし、講師が言われたポイントで早速挑戦！』



禁煙の5か条



- ① タバコの害について自分なりにイメージをもつ
- ② 禁煙しようと思った理由や禁煙中の努力を思い出す
- ③ 禁煙してよかった事を考える
- ④ ラクな気持ちで禁煙を続ける（万一1本吸っても直ぐに続ける）
- ⑤ 禁煙できたことに自信をもつ（1本くらい大丈夫なんて思わない）

「ことばの輝き」優秀作品コンクール 最優秀賞



広島県教育委員会が実施した、平成22年度「ことばの輝き」優秀作品コンクールで、三和小学校4年生の重松佐矢子さんの「おいしいお米とイネの育ち方」が最優秀賞を受賞しました。このコンクールは、「書く」力を身に付けるために、県内の児童や生徒が日常の学習活動の中で作成した作品の中から審査されるもので、重松さんは、イネの育ち方について研究したことをまとめました。「研究では、毎日植えるのが大変だったけど、研究をして良かった」と話していました。

社会を明るくする運動作文コンテスト 入選

「社会を明るくする運動」は法務省が主催し、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする運動で、今回60回という節目の年を迎えました。この運動の一環で毎年行われている作文コンテストで、県内の応募総数10,545点の中から三和小学校5年生の松本亜純さんが入選しました。「あいさつの大切さ」と題した作品は、「あいさつはまほうの言葉で、自分もいっぱいまほうの明かりを灯したい」との思いが評されました。松本さんは「みんながあいさつをして、明るい気持ちになれよう」と話していました。

